

津田塾大学 数学・計算機科学研究所報

20

第10回

数学史シンポジウム

(1999)

2000

津田塾大学 数学・計算機科学研究所

まえがき

津田塾大学 数学・計算機科学研究所主催の「数学史シンポジウム」も回を重ね、第10回が1999年10月23日、24日の両日、津田塾大学5号館で開催された。この研究所報20号はその報告である。

講演をし、原稿を書いて下さった方々に厚く御礼申し上げます。また、発行が遅くなったことをおわびいたします。

なお、浪川幸彦氏が「オイラーの数学とその終焉(?)」と題して講演されたが、御多忙のため原稿がいただけなかった。また、吉沢尚明氏が「(Newtonの) 楕円軌道定理の証明について」という題で講演される予定だったが取消となった。いずれも次回のときに期待したい。

2000年 8月14日

津田塾大学 数学・計算機科学研究所

杉浦 光夫

笠原 乾吉

長岡 一昭

目次

中根 美知代	新 Cauchy 伝説 Cauchy は ε - δ 論法を使ったのか	1
斎藤 憲	『原論』の定型表現(formula)の分析： コンコーダンス作成の一環として	16
足立 恒雄	時間概念の変遷	19
赤堀 庸子	ケイリーとデデキント —1850 年代の群概念	27
竹之内 脩	行列式について	44
上村 義明	Boole 革命再論	60
高瀬 正仁	岡 潔の晩年の遺稿「リーマンの定理」 評伝「岡 潔」のための数学ノートⅢ（未定稿）	66
飛田 武幸	一つの確率論史	116
Si Si	Development of variational calculus in Europe and its application to random fields	124
吉田 晴代	田中館愛橘と地磁気原因論	136
長岡 亮介	応用数学史の試み	150
杉浦 光夫	実単純リー環の分類	158